

## 「街を4分割して持ち帰る(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

3年生は、創造活動の一つとして、「街のジオラマづくり」を行ってきた。2学期から継続して行っている、息の長い活動である。



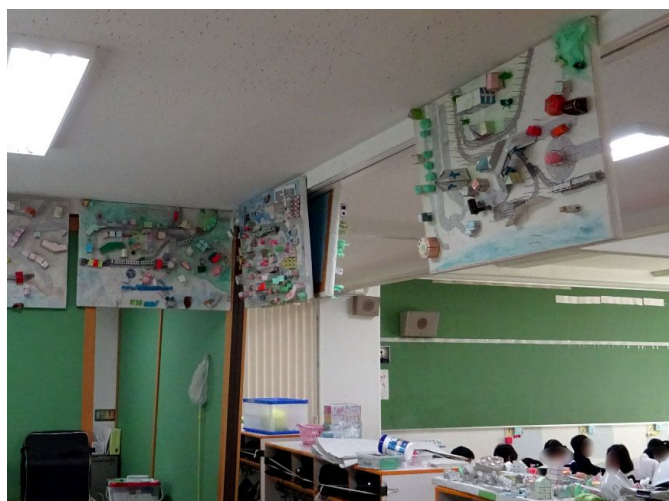
4人(ファミリー)一組で、縦60cm、横90cm、厚さ3cmの大きなポリスチレンボードに、模造紙を貼って、そこに街を作る活動だ。ボードは、建物の壁の断熱材として使われるもので、ホームセンターなどで容易に入手できる。



ボードの貼った模造紙が自分たちの街の土地に相当する。そこに、道路、線路、川、畑、住宅地などを描き(または型紙を切って貼り)そこに立体的に建物を建ててゆく活動だ。建物は私が作った型紙に色をぬって組み立てたり、工作用紙を切って自分で作ることもできる。建物を、楊枝にセロテープで巻きつけることで、スチレンボードに刺して固定できる。



街は「自分たちが住みたい理想の街」を目指した。実際に、学年全員で文京区内を2回歩き、そこで観察した街並みも参考にした。この班には、樹木(楊枝と薄い色紙で作る)の多い公園と、高層ビルがある。



最大の特徴は、縦にしても保管が可能なことだ。裏面上方に磁石をつけてあるので、このようにパーティションのレール(鉄製)にぶら下げて保管できる。



これは「中間発表会」の様子だ。ここでもボードを立てて説明しているが、建物は樹木は落ちてこない。